

株主通信 | 夏 | 号 |

2017年9月期 中間期報告
(2016年10月1日～2017年3月31日)

本株主通信は2017年3月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株式会社 **日本マイクロニクス**
証券コード：6871

株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2017年9月期第2四半期業績について、ご報告させていただきます。

第47期第2四半期累計期間(2016年10月～2017年3月)の経営環境は、比較的堅調に推移いたしました。半導体市場ではDRAMの価格が上昇基調に転じたことに加え、三次元NANDフラッシュメモリの本格量産に向けた投資が活発化しています。またFPD市場も、一部パネルに不足感が生じ始めたことを主要因に価格上昇の傾向が顕在化するなど、全般に底堅い動きとなりました。

こうした状況のもと、当社グループは主力のアドバンスプロポーブカードにおいて、MEMS-SPなどロジックデバイス向け製品の売上拡大を図ると同時に、TE事業では半導体テストを主軸とする安定収益モデルの確立に取り組みました。

当中間期の連結業績は、当社グループのプロダクトミックス(製品構成)が、期初予想との間に乖離を生じたことから、前年同期比

で減益となりました。しかし足元の受注環境は良好に推移しており、通期の業容拡大に向けて期待が高まる半期であったと振り返っています。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

長谷川 正義



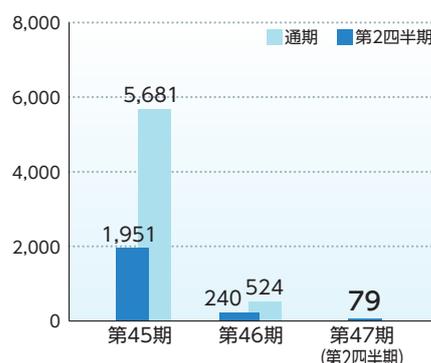
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)





良好な受注環境のもと 『Challenge17』の総仕上げに 取り組んでいます

Q 中期経営計画『Challenge17』は残すところ半年弱となりました。過去2年半の成果を教えてください。

A 第45期にスタートした中期経営計画『Challenge17』では、事業構造改革を通じて確立した強靱な企業体質を基盤に、新たな成長ステップを確実に踏むための地盤づくりに取り組んできました。

プローブカード事業では、メモリ向けのトップベンダーとして製品の安定供給に努めるとともに、MEMS-SPやVertical-Probeなどのロジック向け製品の拡販に注力しました。過去2年半の取り組みにより、市場環境の変化やお客様のニーズに即応できる機動的な受注体制、生産体制を構築できたことは『Challenge17』の成果のひとつと言えるでしょう。一方TE事業では、半導体テストの拡販と新規開発に努め、FPD関連装置から半導体関連装置への軸足シフトに成功しています。

『Challenge17』の重点施策であった海外対応力の強化については、昨年12月にシンガポールに現地法人を設立し、グローバルな事業推進体制の拡充を図りました。今後もアジア地域におけるプローブカード需要の高まりを見据えつつ、拠点の整備と市場の開拓に力を注いでいく方針です。なお二次電池battenice®については現在、関係先と連携しながら原理究明の取り組みを進めているところです。

Q 第47期下半期の見通しと今後の成長戦略をお聞かせください。

A 第47期下半期(2017年4月～2017年9月)の市場環境は、上半期の流れを引き継いで良好に推移するものと見ています。『Challenge17』の総仕上げに向け、ロジック向け製品の拡販とラインアップの一層の充実化に経営資源を積極投入してまいります。また、旺盛な市況環境で受注を最大化すべく、しっかりと準備を行い、来期以降の飛躍へ確かな足掛かりを確保したいと考えています。

今年10月には新たな中期経営計画が始動します。現在、「電子計測技術を通して広く社会に貢献する」という経営理念のもと、対象期間3ヶ年の基本戦略を策定中です。日本社会はいま、ビッグデータの活用やIoT(Internet of Things)の浸透を追い風に、人々の生活とエレクトロニクスがより近い関係性を持つ新しい時代を迎えようとしています。当社グループは今後も、エレクトロニクス製品の「安全・安心」を支える企業として、お客様のニーズを的確に掴み、人びとのより快適で豊かな生活に貢献してまいります。

Q プローブカード等の競争環境はこの先、さらに激化することが予想されます。競合に打ち勝つための御社グループの強みは何だとお考えですか。

A 当社グループの競争優位性は、大きくふたつあると認識しています。ひとつは、独自の総合管理システムQDCCSS(クダックス)の存在です。製品の開発から資材調達、生産、システム構築、マーケティングまで、ビジネス展開のあらゆる段階において、QDCCSSで定めた6つの活動テーマを遵守徹底することにより、お客様にご満足いただける高品質の製品・サービスを創出しています。

もうひとつの優位性は人材です。当社グループは人材こそ最大の経営資産であり成長力の源泉であると捉え、その育成と活用に全力を注いできました。グローバル人材を輩出するための英語教育や海外研修、女性の活躍支援や積極登用を主要骨子としたダイバーシティの推進により、当社グループの次代を担う有為な人材が多数育ってきました。変わることにない経営理念とQDCCSSという先駆的なシステム、そこに人材の力を注入・融合することで、長期にわたって成長できる持続可能な企業グループを実現してまいります。

Q 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 当社グループは1970年の創立以来、独自の計測技術を駆使して、プローブカードをはじめとするさまざまな先端製品を創造し、成長を続けてまいりました。ビジネスの対象である半導体などのエレクトロニクス領域は、他の産業に比べてボラティリティ(変動性)の高い世界ですが、保有技術にさらに磨きをかけ、市場ニーズに適応した生産体制とガバナンスの効いた経営体制を堅持することで、さらなる成長を目指してまいります。

また、株主の皆様に対する利益還元につきましては、業績・配当性向等を総合的に勘案のうえ、安定した配当を継続していく考えです。

『Challenge17』の完了まで残り数ヶ月となりました。強化された経営体質と闊達な企業文化のもとで効果的な諸施策を遂行し、新たな中期経営計画のスタートに向けて弾みをつけたいと考えております。株主の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



TOPICS

『BiTS2017 Burn-in & Test Strategies Workshop』に出展いたしました。

2017年3月5日～8日、米国アリゾナ州で開催された『BiTS2017 Burn-in & Test Strategies Workshop』に出展いたしました。

当社は、ICソケットユーザーとの貴重な情報交換の場である本ワークショップに毎年出展し、パッケージプローブ(テストソケット)の「J-Contacts」と「BeeContacts」のPRを行っています。今回は、昨年12月にリリースした「J-Contacts」の性能をより安定させる「GND Block Pin (グランドブロックピン)」も紹介することができました。

また、ブースにデザインされたMEMSプローブの写真に関心を持つ来場者が非常に多く、本プローブを使用したプローブカード「MEMS-SP」に対する市場の期待感も肌で感じることができました。

今後もこのような機会を通して、顧客のニーズを探り、米国市場における販路拡大を目指してまいります。

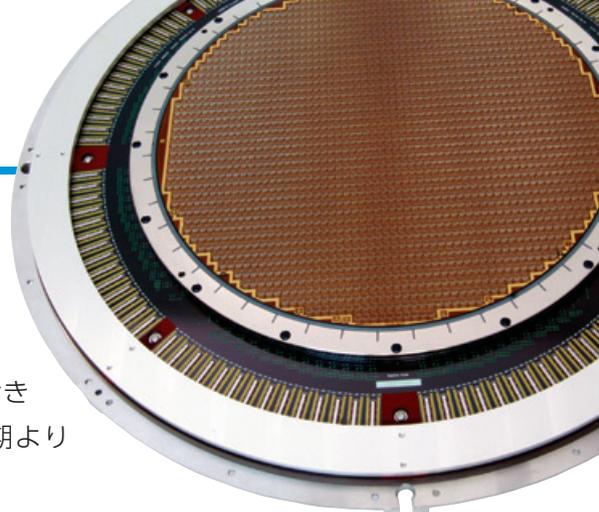


営業の概況

プローブカード事業

プローブカードは、ロジック向けが減収となりましたが、DRAM市況の回復やNAND需要の増加によりメモリ向けアドバンスプローブカードが増収となり、全体的には前年同期並みとなりました。利益面におきましても、プロダクトミックス(製品構成)が変化したことで、前年同期より減益となりました。

この結果、売上高は11,283百万円(前年同期比1.3%減)、セグメント利益は828百万円(前年同期比54.1%減)となりました。



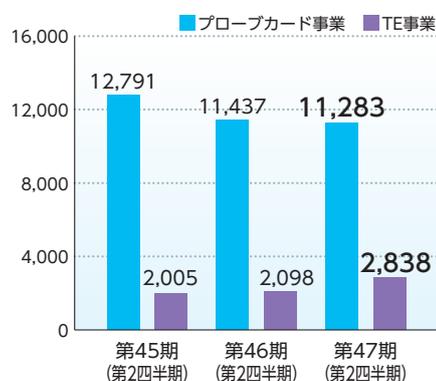
TE事業

半導体装置関連では、半導体テスタが前年度に引き続き高需要となり、好調に推移しました。一方、LCD検査装置関連は、装置は低調でしたが、プローブユニットは底堅く推移しました。利益面におきましては、売上高増加の影響もあり、増益となりました。

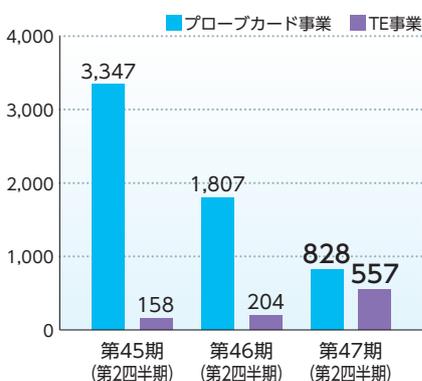
この結果、売上高は2,838百万円(前年同期比35.2%増)、セグメント利益は557百万円(前年同期比172.2%増)となりました。



■ セグメント別売上高(百万円)



■ セグメント別営業利益(百万円)



■ 地域別売上高構成比(百万円)



地域	売上高(百万円)	構成比
日本	3,651	25.9%
韓国	3,884	27.5%
台湾	4,126	29.2%
その他アジア	1,168	8.3%
欧州・米国	1,293	9.1%

通期業績予想

売上高

30,000 百万円

営業利益

2,000 百万円

親会社株主に帰属する当期純利益

1,500 百万円

1株当たり配当金

10 円

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)

株式会社 **日本マイクロニクス**
MICRONICS JAPAN CO., LTD.

本社 〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
HPアドレス <http://www.mjc.co.jp/>